

で、各医学部はこれを取得するとする決議が行われております。熊本大学でも二〇一九年度に受審するため、医学教育を改変し、国際認証に叶うものに進化させなければなりません。

このような背景の中、第十五回のFDワークシヨップは、東京医科歯科大学教授、高田和生先生をお迎えし、「診療参加型臨床実習」についてのご講演をいただいた後、上記に関連したいくつかのテーマで、九時から十七時まで三五名の基礎、臨床の教員、研修医、医学生、事務の方々のご参加をいただき活発なディスカッションが行われました。

末筆となりましたが、本医学教育FDワークシヨップの開催に際し、いつもながらプランニングから円滑な運営に携わっていただきました、古川昇先生、谷口純一先生に心から感謝申し上げますとともに、ご支援をいただきました肥後医育振興会に御礼申し上げます。

## 日本遺伝看護学会第十四回学術大会の報告

熊本大学大学院生命科学研究部臨床看護学分野教授 国府 浩子

日本遺伝看護学会第十四回学術大会を、平成二十七年十月十日～十一日の二日間、熊本市医師会館にて開催し、全国より多くの皆様にご参加いただきました。本学会のテーマは「ひろげよう つなげよう 遺伝看護」であり、領域や専門性に関係

なく遺伝看護の心をひろげて、つなげていくことができた学会になりました。

特別講演は、熊本大学大学院先端機構の高橋隆雄先生による「遺伝医療と生命倫理」、教育講演一は、本学会理事長である山梨大学大学院の中込さと子先生による「これからの臨床看護実践における遺伝看護の重要性」、教育講演二は新潟大学大学院の有森直子先生による「遺伝看護の専門性」というテーマでご講演いただきました。

また、シンポジウム「がん・神経難病領域における遺伝看護の実践と課題」では、第一線で活躍する看護職による具体的・専門的な遺伝看護実践活動の報告、パネルディスカッション「周産期・小児領域における遺伝看護実践」熊本大学医学部附属病院の活動報告「では、産科婦人科学講座（臨床遺伝専門医）の大場隆先生や遺伝カウンセリングチームによる多職種で連携した活動についての報告があり、活発なディスカッションの場となりました。熊本大学大学院生命科学研究部神経内科学の山下太郎先生にはラUNCHONセミナー「トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチーの治療最前線」をご講演いただき、地域性のある疾患について全国の看護職に知っていたたく機会となりました。

一般演題では、周産・小児領域、がん・難病領域で、日頃の看護や遺伝看護の専門的な活動について理解を深めるとともに課題を明確にすることができまし

た。発表者の日頃の真摯なご活動、そして発表に向けての誠意が伝わってくる内容ばかりで、遺伝看護の裾野が広がったことを実感する学会となりました。

末尾となりましたが、本学会の開催にあたり、多大なるご支援を賜りました公益財団法人肥後医育振興会の皆様に感謝申し上げます。

## 第三十九回国立大学アイソトープ総合センター長会議および実験動物分子イメージング研修会の報告

熊本大学生命資源研究・支援センターRI実験分野准教授 古嶋 昭博

平成二十七年六月三日（水）、四日（木）の二日間、熊本大学山崎記念館研修ホールにおいて、熊本大学生命資源研究・支援センターアイソトープ総合施設が担当して第三十九回国立大学アイソトープ総合センター長会議および実験動物分子イメージング研修会を開催いたしました。

二十一の旧国立大学アイソトープ総合センターのセンター長や専任教員、事務関係者六十三名が一堂に集い、各大学および全国における放射線やRIを用いた研究および教育の在り方について活発な討議が行われました。また、会議に関連して文部科学省による「学術研究を取り巻く動向」、原子力規制庁による「放射線障害防止法関係の最近の動向」につい

て基調講演があり、放射線研究・教育のための基盤的支援について重要な指針を学ぶことができました。

次に、実験動物分子イメージング研修会が会議参加校の内の九大学二〇名の参加で行われました。分子イメージングとは人や動物の生体内で起きている生命現象を分子レベルで画像化する技術であり、最近、病態解明や診断および治療薬の開発に欠かせない研究手段として注目されています。特にRIを用いた分子イメージングを行う研究者や現場管理者は、PETやSPECT、X線CTと呼ばれる特殊なイメージング装置の使用に習熟することと、実験動物へのRI投与や飼育の他に放射線やRIの安全取扱いに必要な管理技術が求められ、本研修会ではそのための人材育成を支援する全国研修プログラム企画や実施についての講義と討論が行われました。

また、今回の研修に際して熊本大学工学部研究センター 岡田誠治教授より「生体イメージングに最適化された無毛高度免疫不全マウスの開発と生命科学研究への活用」と題して、分子イメージングに不可欠な疾患モデル動物と最新の研究についての講演がありました。

最後に、本会議および研修会を無事に終了することができました。開催にあたりまして肥後医育振興会より温かいご支援を賜り心より厚く御礼申し上げます。